

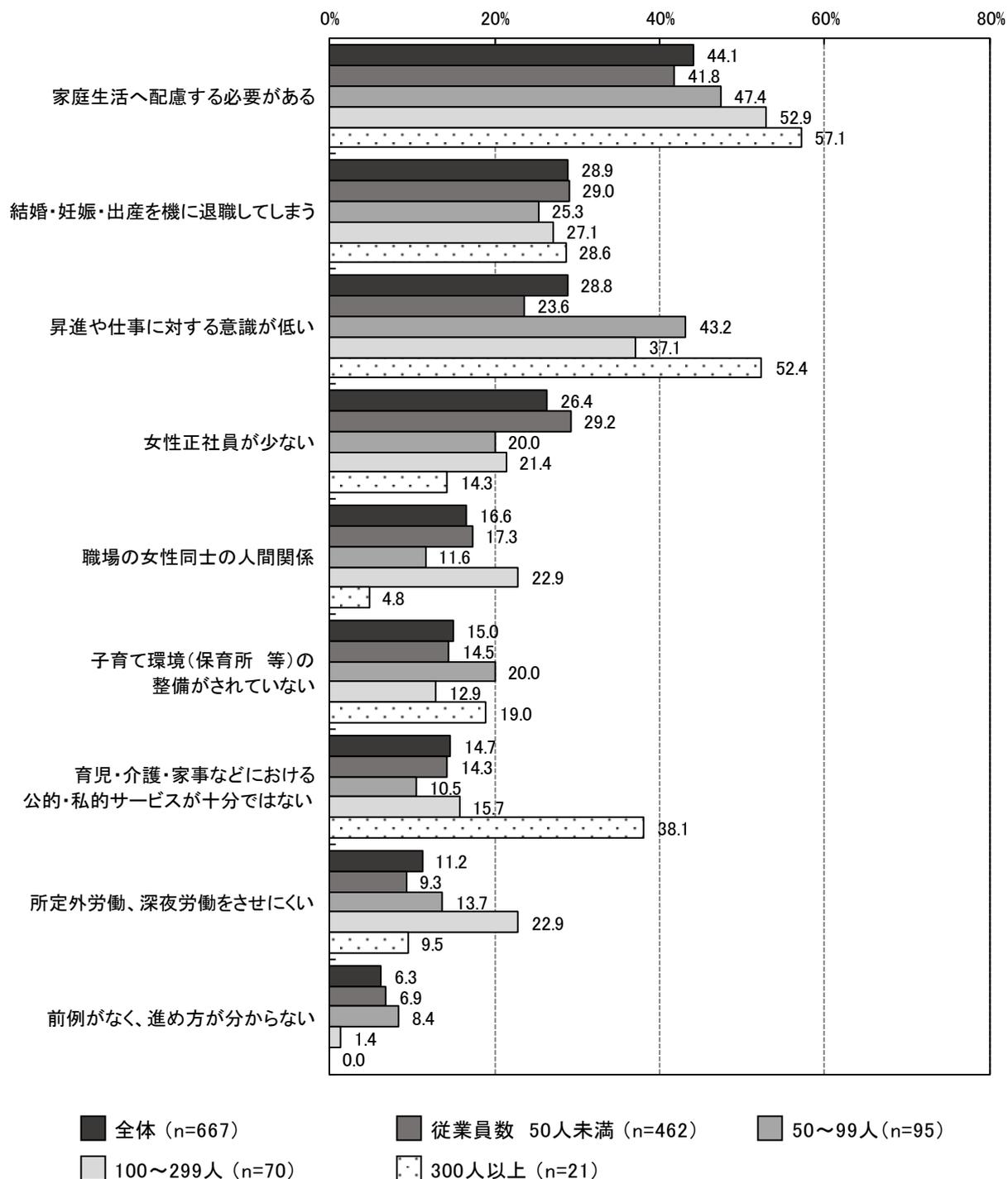
第七章 女性の活躍を推進するうえでの課題について

1. 女性の活躍を推進するうえでの課題【問15】

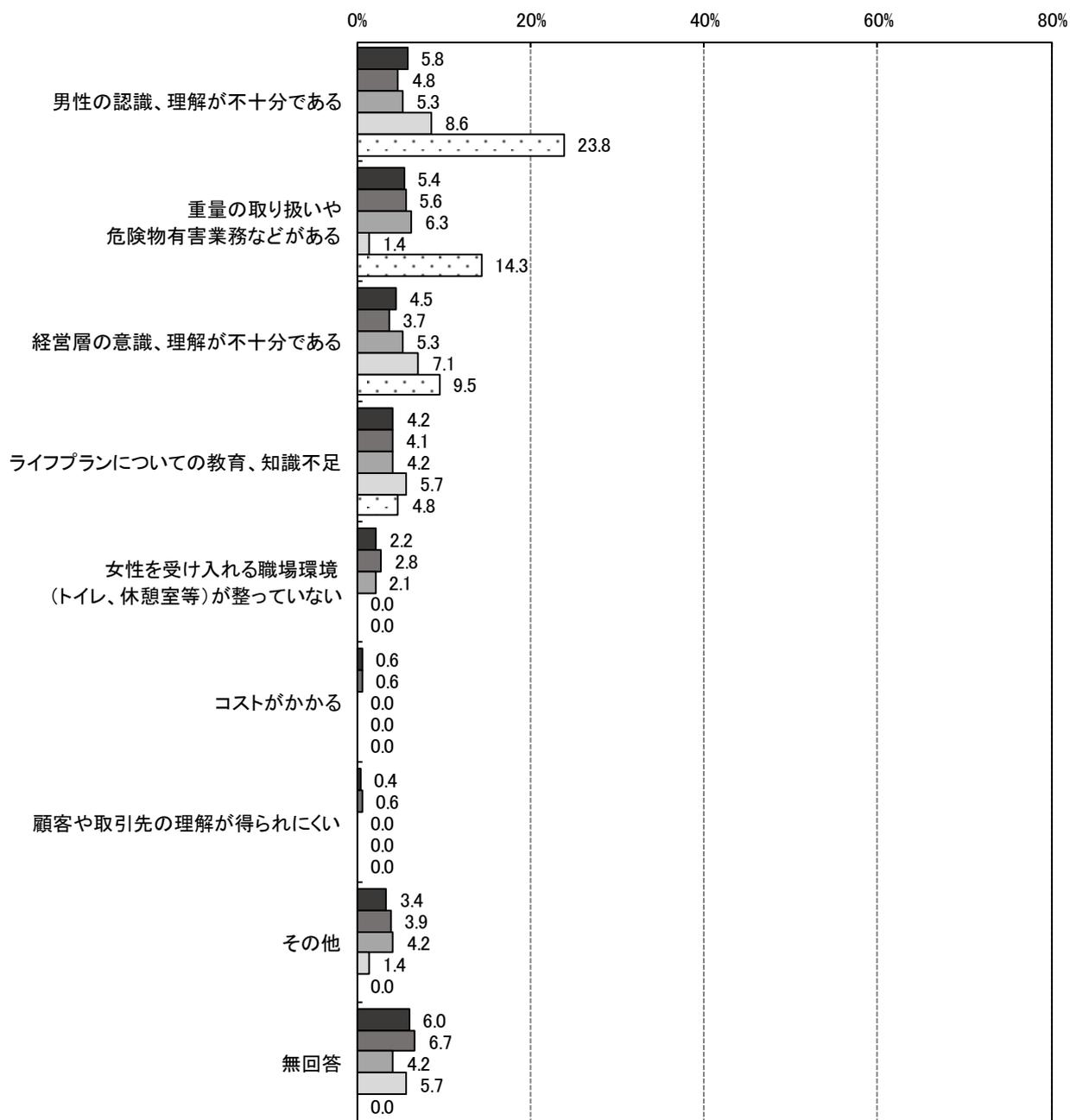
全体では、「家庭生活へ配慮する必要がある」が44.1%と最も高く、次いで「結婚・妊娠・出産を機に退職してしまう」が28.9%、「昇進や仕事に対する意識が低い」が28.8%の順となっている。

従業員規模別でみると、いずれの従業員数も「家庭生活へ配慮する必要がある」の割合が最も高く、そのうち300人以上が57.1%と最も高くなっている。

〔図表 7-1-1①〕 女性の活躍を推進するうえでの課題（全体・従業員規模別）《MA》



[図表 7-1-1②] 女性の活躍を推進するうえでの課題（全体・従業員規模別）《MA》



全体 (n=667)
 従業員数 50人未満 (n=462)
 50~99人 (n=95)
 100~299人 (n=70)
 300人以上 (n=21)

女性従業員【問11】の回答と比較すると、企業、女性従業員ともに「家庭生活へ配慮する必要がある」の割合が最も高く、相半ばしているが、「結婚・妊娠・出産を機に退職してしまう」で11.7ポイント、「子育て環境（保育所等）の整備がされていない」で11.8ポイント、「育児・介護・家事などにおける公的・私的サービスが十分ではない」が11.2ポイント、「男性の認識、理解が不十分である」が10.9ポイントと、それぞれ女性従業員の回答が企業の回答より10ポイント以上高くなっている。

〔図表 7-1-2〕女性の活躍を推進するうえでの課題（女性従業員【問11】の回答比較）《MA》

